

2017年度活動報告書 あたらしいTOYプロジェクト

2017年度の「あたらしいTOYプロジェクト」（研究代表者：桑久保亮太准教授、研究分担者：金山智子教授）は昨年引き続き、学生とともに個人作品の制作・発表とディスカッション、いくつかの共同作品制作等を進めた。

1 『Life of YORO! まちの宝モノ展』（養老町高田西町安田邸、2017/5/20~22）

建築家の安田綾香氏が養老町で進めるアーティスト・イン・レジデンス・プログラム「Made in YORO!」のキックオフイベントとして養老町で250年以上続く大祭「養老高田まつり」の期間に開催された『Life of YORO! まちの宝モノ展』に参加し、シンボル展示を行った。

今回の企画で展示を依頼された会場は、AIR施設として改修中の安田邸の蔵であり、基礎の補修のみ完了し、床はなくフレームのみとなった空間である。同会場では町内の人からお借りした自宅に眠る古道具（=まちの宝モノ。早稲田大学建築学科古谷・藤井研究室のワークショップによる）を配置する計画であることと、空間的に1Fから屋根裏までが見通せる状態となることから、高さを活かし、地元の人々や訪問者を結びつけるシンボルとして養老の滝のプロジェクトを制作・展示した。

参加メンバー：北詰和徳(M2)

協力メンバー：小濱史雄(M2)、山口伊生人(M2)



『Life of YORO!』養老の滝のプロジェクト 撮影:山口伊生人

2 『カレイドトレイン』（養老鉄道車内、2017/11/18~19）

『MADE IN YORO! ときの万華鏡展』（主催：株式会社エルアンドシーデザイン）の一環として、養老鉄道の協力のもと、車内での展示を企画・制作した。

万華鏡というキーワードをもとに、現場視察と実験を繰り返し、車窓からの風景自体を異化し地域の再発見の端緒となるような体験を画策した。具体的には車窓に無数のミラー片を貼り車窓からの風景の断片を反射する仕組みを作った。作品を設置した一編成は、養老改元1300年を記念する『養老アート・ピクニック』の開催日である11月18日と19日に大垣―桑名間で運行された。

参加メンバー：中路景暁(M1)、平瀬未来(M1)

協力メンバー：工藤恵美(M1)、野呂祐人(M1)



『カレイドトレイン』車内の様子

3 岐阜県博物館とのコラボレーション

金山教授の提案により、岐阜県博物館への訪問・リサーチとディスカッションを行った。

岐阜県博物館は開館40年以上の歴史ある博物館であるが、それ故の可能性と問題点が現地の視察から浮かび上がってきた。同館の展示に於いて極めて特徴的なのは、常設展示にほとんどデジタルメディアを導入していないことである。一方で実際に触れる剥製が展示されているなど、フィジカルな側面を重視していることが分かった。

卒展では岐阜県博物館の中島守館長を招いたRCICトークイベント「博物館と娯楽性」に参加。プロジェクトメンバーによって、同館の特徴を活かした展示のアイデアを提案した。また開催日には同館から借用した所蔵品（各種標本）を編集し展示した。

今後、同館の特徴を活かしながら、デジタルメディアの利点を導入する場合の可能性について継続して活動していく予定である。

参加メンバー：棚原みずき(M1)、中路景暁(M1)、平瀬未来(M1)



博物館見学



卒展での展示

4 プロジェクト研究発表会（ソフトピアジャパン センタービル、2018/2/22-25）

プロジェクトで通年で制作していた各学生の作品・習作をプロセスの経緯とともに展示した。



プロジェクト研究発表会 展示

4 谷口暁彦氏 レクチャー『ゲーム/ディスプレイ/インターネット』（Rカフェ、2018/3/26） 講評会（プロジェクト室、2018/3/26）

メディアアーティスト谷口暁彦氏を招いてレクチャーを開催した。

氏の今までの制作活動を総括的に解説するとともに、ポスト・インターネットの動向も概説いただいた。

講評会ではプロジェクトメンバー及び希望者が谷口氏に作品をプレゼンし、コメントをうけた。



谷口暁彦氏による講評